

今年につきましては、全国的にトビイロウンカの飛来量が多いとの情報があり、8月29日、兵庫県は、注意喚起を呼び掛けています。

水稻に坪枯れを起こすトビイロウンカは海外から前線に乗って飛来しますが、今年は早くから多く飛来して来ていることが確認されています。トビイロウンカは水田侵入後ほとんど移動せずに同地点に留まって繁殖・吸汁し続け、収穫前に坪枯れを起こすため秋ウンカと呼ばれています。

神戸市西区では9月3日という異例に早い時期にトビイロウンカによる坪枯れが確認され、三田市、猪名川町でも9月5日に確認されました。通常が多発年より半月早いため、中晩生品種ではもう1世代増殖して現時点の100倍以上に達するため、坪枯れを起こす可能性は著しく高いです。トビイロウンカの発生は局地的で、田んぼの中でも局所的であるため、発生を確認するのは困難ですが、ほ場内の葉色の濃いよく出来た場所に多い傾向があるので、そういう地点での確認が重要です。**中晩生の品種では被害（坪枯れ）が懸念されることから、出穂前防除を実施していない場合は必ず防除を実施してください。また、極早生、早生品種で被害が出そうな場合は収穫を早めて下さい。**

○対策

トビイロウンカは稲の株元に生息していますので、株元をよく観察してください(写真)。

防除の際の注意点は次のとおりです。粉剤は速効性は高いですが、株元に薬剤がかからない限りトビイロウンカは死にませんので要注意です。またトレボン粉剤DLは一般の粉剤に比べ流動性が良いので、散布の際は1目盛絞って散布しましょう。トビイロウンカは現在産卵期です。粉剤の散布は9月16日以降が好ましいです。スタークル粒剤は有効成分が根部及び葉鞘部(水面下)から吸収し、上方移行するため、効果が出るまで数日間要します。早めの散布を心がけましょう。

薬剤名	10アール当り使用量	使用期限	対象害虫
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類
スタークル液剤	1000倍 60～150 $\frac{1}{100}$ ℓ		
トレボン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ

※使用の際は収穫期までの期間にご注意ください。

※農薬使用については、総使用回数・収穫前日数等に注意し使用基準を守り、散布してください。

●粒剤、豆つぶ剤の場合は、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や、かけ流しをしない。

以下、三田市内の発生状況

(令和元年9月11日調査)

【三田地区】坪枯れ 0件

トビイロウンカ 7匹/40株

【三輪地区】坪枯れ 0件

トビイロウンカ 2匹/40株

【高平地区】坪枯れ **5集落確認**

トビイロウンカ 8匹/40株

【藍地区】坪枯れ 0件

トビイロウンカ 0匹/40株

【本庄地区】坪枯れ 0件

トビイロウンカ 6匹/40株

【広野地区】坪枯れ **1集落確認**

トビイロウンカ 2匹/40株



トビイロウンカは株元に集中し、吸汁し続けるため、茎は枯れ上がり、枯れたところは円形に坪枯れする。

発信日：令和元年9月11日(水)

問い合わせ先：三田営農総合センター 079-563-4192

令和元年
7月25日発信

三田稲作情報

【発行・編集】
JA兵庫六甲三田営農総合センター
阪神農業改良普及センター
お問い合わせ先：079-563-4192

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

7月18日に、生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

<生育調査結果より>

草丈はやや短く、茎数は一部多くなっています。コシヒカリ、どんとこい、多収米とよめきはすでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、湛水を行ってください。

山田錦の生育についても、草丈はやや短く、茎数はやや多いです。中干しの時期が近づいています。分けつが16～17本/株確保できれば中干しを開始します。

調査結果	品種	地区名	田植日	令和元年		平成30年度		品種	地区名	田植日	令和元年		平成30年度	
				草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)				草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
				コシヒカリ	三輪	6月5日	70.8				23.7	73.4	31.1	山田錦
	藍	5月13日	91.8	28.4	98.6	27.8	広野	6月5日	63.8	31.4	68.8	22.4		
どんとこい	広野	5月26日	69.2	24.1	86.3	29.3	とよめき	本庄	5月26日	77.5	22.5	77.7	18.9	

【出穂予測】

コシヒカリ…5月13日植え：7月25日、5月30日植え：8月5日

どんとこい…5月29日植え：8月5日 とよめき…5月26日植え：8月4日

病害：調査時には、目立った病害は見つかりませんでした。

害虫：ウンカ類の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程ではありませんでした。

イナゴ類の発生がやや多く見られますが、収量に影響する程度ではありません。

<今後の管理について>

【いもち病】

定点調査では葉いもちの発生は見られませんでした。いもち病は日照不足や多雨により感染しやすくなります。本年は7月に入り不順な天候が続いており、慢性・停止型の病斑が散見されますので、穂いもちへ移行する可能性もありますので、発病動向に注意してください。発病ほ場では基幹防除に加えて、下記の臨機防除を含めた対策を検討して下さい。

●ほ場内で、葉いもちが多数発生している場合は、穂いもちへの移行を防ぐため下記の表を参考に防除しましょう。薬剤散布の判断がしにくい場合は、営農相談員までご連絡ください。

薬剤名	適用病害名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
ブラシン粉剤DL	いもち病 ごま葉枯病	3～4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
	内穎褐変病 もみ枯れ細菌病	4kg/10a			
コラトップ粒剤5	いもち病	3～4kg/10a	穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	散布
	もみ枯細菌病	4kg/10a	出穂30日前～5日前まで		

※その他病害の登録内容についてはラベルをご確認ください。

【カメムシ対策】

●コシヒカリの出穂期が近くなっております。出穂の2週間前までには畦畔などの草刈りを終えるようにしてください。また水田内のヒエ引きも行ってください。出穂5～7日後の薬剤防除が有効です。

※出穂間際の畦草刈りは本田に追い込むこととなりますのでご注意ください。

●山田錦、ヒノヒカリ等晩生品種では、出穂2週間前までにカメムシ類の生息場所である畦畔の草刈りを済ませ、水田内のヒエも出穂までに除去してカメムシ類の本田への移動を防ぎましょう。本田での防除は出穂5～7日後が有効です。

薬剤名	適用害虫名	10a当り使用量	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、カメムシ類	3kg	収穫7日前まで	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g		
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g～500g		

【その他】

●ウンカ類は少なく防除不要ですが、産卵痕が見られますので、中晩生品種は秋ウンカに注意してください。

●出穂期は、特に水分を必要とするので水を切らさないようやや深水とし、登熟期以降には飽水管理（田面には水はないが、足跡や排水溝に水が溜まる状態）、間断灌水を行ってください。